

Funehiki High School News vol.184

～がんばる船高生～
ATTENTION!

第64回 家庭クラブ 岡田 香央里さん・浦山 心さん

本校の家庭クラブは、地域活性化の取り組みやたむら支援学校との交流会などさまざまな活動に精力的に取り組んでいます。今回はその中心となり活躍する岡田香央里さん(2年 大越中)と浦山心さん(2年 常葉中)に話を聞きました。
Q 家庭クラブでの取り組みについて教えてください。

岡田さん・浦山さん 昨年度、市役所、都路町商工会、みやこじスイーツゆいの皆さんにご協力をいただき、菊芋スイーツ「ふわッテラ」を開発しました。これは、地域の宝物を共有し、地域での役割を学び、地域に誇りを持つことを目的とする「えがお田村プロジェクト」事業によるものです。今年度は、たむら支援学校高等部による菊芋を使った焼菓子づくりにも参画し、「ふわッテラ」の魅力を発信したいと考えています。本校の公開文化祭では「ふわッテラ」の販売とハンドメイドのポーチ製作教室を開催しました。

Q 今年9月に開催された県南地区家庭クラブ研究発表大会について、教えてください。

岡田さん 私たちの取り組みとその成果について発表をしました。「ふわッテラ」の商品開発から完成までの取り組みや、たむら支援学校との協働の取り組みに私たちの経験を生かすことについて発表してきました。その成果として県南地区家庭クラブ連盟研究発表大会学校家庭クラブ活動の部「優秀」をいただきました。

Q 研究発表大会で他校の発表を見て、どのような感想を持ちましたか。

浦山さん 各学校の発表内容はどれも大変素晴らしく、特に、小野高校の発表が印象に残っています。小野こまちロードレースというマラソン大会に参加する人たちに地元をPRする「のりノリ緒結び」というお弁当を提供する活動は、地域の方々の要望や依頼に応えながら、家庭クラブとして幅広い活動に取り組んでおり、私たちにとっても勉強になるところがたくさんありました。

Q 今後の活動について、教えてください。

岡田さん・浦山さん 12月には、たむら支援学校との今年度2回目の交流会があり、たむら支援学校で商品化する焼菓子のラッピングとして使用する水引を一緒に作りますので、機会があれば手に取ってご覧ください。その他にも、雑巾を縫いためており、季節の飾りやメッセージカードと一緒に近隣の高齢者施設に届けたいと考えています。今後も地域に根差した船引高校家庭クラブの活動に一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



▲左から、岡田さん、浦山さん

◆修学旅行に行ってきました！

10月26日から29日に、2学年が修学旅行に行ってきました。人と防災未来センター(神戸市)や東大寺(奈良市)などの見学では防災や歴史についての学びを深め、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(大阪市)では大いに楽しみ、充実した思い出をつくることができました。

～生徒たちの感想～

「関西の人たちの温かさや喋り方、人との接し方が東北とはまた違った良さがありました。関西の人の温かさは一生忘れることがないと思います。」

「修学旅行では、自分の住む日本の文化と歴史の素晴らしさやそれを支える人たちの温かみについて感じる事ができました。今回学んだことをきっかけに、これからも一層日本の文化や歴史に興味を持っていきたいと思っています。」



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
H P ...<https://funehiki-h.fcs.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp



地域おこし協力隊奮闘記

こんにちは。田村市地域おこし協力隊の岡寄です。
田村に移住して約半年。環境・場所・考え方と、ありとあらゆるものが大きく変化した半年でした。忙しくさせていただいている中で、初めての業務に正直ついていくことがやっとなかったです。僕は、文字通り心を亡くしてしまっていました。そんな中、自分にできることは一体何なのかと自問自答する機会があり、自分の内側に少し目を向けてみました。



岡寄のその先 vol.02

Next Stage

僕は現在、移住して林業を担う人材を獲得するための事業を担当しているのですが、関わって行くうちに林業が抱えている課題や、団体・個人レベルで困っていることなどが少しずつ見えてきました。その中で、知識やスキルのない僕にでも解決できる領域ってあるのだろうか？と思うことが増えてきました。元々、僕が田村に来たきっかけのひとつとして、工学部出身であることを生かしたもののづくり、いわゆるファブラボ*がしたいという思いがありました。とはいえ僕は、ものづくりに関してはそこそこの知識だし、木材に関しては無知同然。それでもまずは木に触れねばと思い、テラス石森の木工室で木材を切ったり、貼ったりと試行錯誤してみたのですが、棚を作ったつもりが予定していた物が入らず、という失敗をしながらも、木を割らずにビスを打つ方法や切断の方向(木目)など、学ぶことは多く、やってみないと分からないこともあると感じました。



こうした学びの中で、僕が関われそうな領域を挙げるとするならば、ものづくり×田村の木材。新しい価値を生み出すことなのではないかと、最近ぼんやり思っています。田村市には田村杉と呼ばれる材木があり、針葉樹らしい特性から建材向きと言われています。最近ではフレーム・ホイール部が木製の自転車が少し話題になるなど、僕は木材を使った商品にもものすごく可能性を感じています。また、デジタルの力を使った小物や商品作りにつなげられたらおもしろいのではないかと考えています。田村の木材を使って名産品を生み出すことは



簡単なことではありませんが、時間をかけ、木と本気で向き合いたいと考えています。まずは自分にできることから始め、木と向き合う時間を確保しながら、担当する林業事業に貢献していきたいと考えています。まずは物がちゃんと入る棚を作って(笑)、次に投稿する際には、作ったものを皆さんにもお見せできるようにしたら良いなと思います。
*ファブラボ...3Dプリンタやカッティングマシンなど多様な工作機械を備えたワークショップのこと。